

季刊
春号



博物館だより

FUKUSHIMA MUSEUM
QUARTERLY

URL <https://general-museum.fcs.ed.jp>

春の企画展

132

とりもどすきずな
つながるみらい

福島県立博物館

とりもどすきずな
つながるみらい

春の企画展

とりもどすきぎずな つながるみらい



I am flower project



HEART MARK ♥ VIEWING



Koi 鯉アートのぼり

2011年3月11日。

あの日からいくつもの

アートプロジェクトが福島で生まれた。

人と人。

場と場。

さまざまなことをつなぐアートプロジェクト。

これまでと

みなさんをつくる

これから。

2011年3月11日の東日本大震災により多大な被害を受けた東北の被災地では、被災直後から文化芸術による支援活動が行われました。福島県でも避難所でのコンサート、仮設住宅でのワークショップ、伝統芸能の支援、地域産業とのコラボレーションなど、さまざまなスタイルの支援がありました。被災者・被災地と支援者・全国の親密な交流は復興に向かう福島の大きな支えでした。

本展では、震災直後から活動を開始し、現在まで変容を重ねながら継続、発展している7つのアートプロジェクトをご紹介します。震災から9年目の福島で、あらためて震災の中で生まれた文化芸術のムーブメントを捉え、2011年以降の交流を未来に届ける場とします。



流転



プロジェクトFUKUSHIMA!



光の鳥プロジェクト



Daylily art Circus

アートプロジェクト

プロジェクトFUKUSHIMA! (大友良英、山岸清之進 and more)
 福島市出身の音楽家・大友良英らが立ち上げ、各地から集めた布地を縫い合わせた「大風呂敷」プロジェクトなどを展開。2015年からは福島市出身の山岸清之進が代表となりあらたな展開をみせています。

Daylily art Circus、**北屋形神楽再興プロジェクト**、**他**

(開発好明、磯崎道佳、木村崇人、高橋士郎、滝沢達史、タムラサトル、仲田智、野田裕示、吉澤美香、北屋形神楽保存会)

震災直後から現在に至るまで、現代美術家・開発好明が中心となり福島で実施された多彩なプロジェクトをご紹介します。

Ian flower project (原案：片桐功敦、企画・運営：西会津国際芸術村)

大阪府堺市在住の華道家・片桐功敦が福島県内各地で開催したワークショップ「草木をまとう」。地域の草花に親しむワークショップは、自然への敬意を深め参加者間の交流を生みましました。

光の鳥プロジェクト+ミズアオイプロジェクト (吉田重信)

現代美術家・吉田重信の「光の鳥プロジェクト」は被災地からのメッセージを国内外に発信。津波被災地で再生した植物・ミズアオイを通して交流する「ミズアオイプロジェクト」も福島と各地をつなぐプロジェクトです。

流転 (中筋純)

写真家・中筋純が撮影した福島県大熊町、浪江町などの写真や福島県出身者の震災後の福島への想いをのせた表現などが融合した巡回型の展覧会。

Koi 鯉アートのぼり (渡邊晃一、福島大学芸術による地域創造研究所)

福島大学教授で現代美術家の渡邊晃一主宰のアートプロジェクト。福島からのメッセージ、福島へのメッセージをこめた鯉のぼりを集め、さまざまな場所で展示。国内外からの多数の参加がありました。

HEART MARK VIEWING (日比野克彦)

東京藝術大学教授で現代美術家の日比野克彦主宰のアートプロジェクト。全国から集めたハートのパッチワークのタペストリーの展示や集めた生地をつかったパッチワークの制作ワークショップを行いました。

イベント

会期中、プロジェクトを主宰してきた作家たちを招いてのトークイベント、みなさんに作品制作に参加いただくワークショップを開催します。みなさんの手で、きずなを未来につなげてください。詳細は8Pのインフォメーションをご覧ください。

会 期：4月27日(土)～6月9日(日)
 休館日：5/7(火)、5/13(月)、5/20(月)、5/27(月)、6/3(月)
 会 場：福島県立博物館企画展示室・エントランスホール
 観覧時間：9：30～17：00 (入館は16：30まで)

観覧料：大人・大学生 500円
 (20名以上の団体：400円)、
 高校生以下 無料
 主 催：福島県立博物館

ト
ン
ベ
レ
ポ
ー
ト

特集展

震災遺産を考える

会期…2月16日(土)～4月11日(木)
主催…福島県立博物館

震災遺産は東日本大震災を「歴史」として位置づけ、震災によって生み出されたモノや震災を示すバシヨの収集・保全を続けています。2014年から続いている今回の公開も5回目となりました。今回の展示では、「地震と破壊」「混乱と避難」「震災と時間」の3章からなる展示構成としました。

地震と破壊

津波は浜通りの各地に大きな被害を与え、地層にその跡を残しモノを破壊し尽しました。津波により破壊されたモノ、地層に残された記録を展示し自然災害の威力を伝えました。

混乱と避難

災害発生直後の様子から「避難」を題材として紹介しました。災害対策本部の資料からは、被害状況の確認から、避難者の把握、原子力発電所事故によりバスを手配して避難を進める様子などを読み取ることができます。また一時避難所や大規模で長期化した避難所のこと、県外避難所の資料も展示し、東日本大震災を「避難」を通じて浮き彫りにしました。

震災と時間

新たにお預かりした写真からは、定点観測したことで時間の経過を見ることができ、博物館が保全してきたモノ



富岡町災害対策本部跡の再現



館長講座 中越大震災が遺したもの



県外避難に関する資料



展示解説会の様子 1



展示解説会の様子 2



雨がっぱと新聞紙スリッパ作り



防災講座 楽しいそなえ

を展示したことで、止まっている時間との対比を試みました。子ども向けの取組

震災後に生まれたキャラクターも館蔵資料と併せて紹介し、紙芝居などお子さんも親しみを持つ展示コーナーも設置しました。開幕日には防災講座「楽しいそなえ」を開催しました。親子連れ、お孫さんと簡単な工作を通じていざというときの備えを考えました。子ども会行事や、学校での避難訓練にあわせても実施可能な備えです。

震災遺産の活用

会津大学との連携が進められたソフトウェアの展示を行うことができました。今後の博物館展示を意識し、館内でWEBを通じた閲覧ソフトの使用も試験的に行いました。

特集展「震災遺産を考える」では、時を止めた資料たちがあの日、あの時のことを問いかけています。あらためて、この8年間を考える機会となったでしょうか。

(震災遺産担当…筑波匡介)

雪国・会津の暮らしと祈り

会場：常設展部門展示室 民俗
観覧料：常設展料金

部門展示室(民俗)は、4月2日より新たな展示に生まれ変わります。これまで「ふくしまの子供の世界」と題して、安産祈願や子供が成長するまでの儀礼、伝承されてきた遊び、子供の活躍する祭礼や芸能などを紹介してきました。新しい展示では、会津地方の民俗文化にスポットを当て、地域に特有の文化を掘り下げてご覧いただきます。深い山々に囲まれ、冬は雪に閉ざされる会津には、地域性の豊かな文化が育まれてきました。今回は「会津の冬と暮らし」「植物と手仕事の文化」「雪国の祈りと祭り」の3つのコーナーに分けて、会津の人々が営んできた暮らしのなかのハレとケ(非日常と日常)をご紹介します。

例えば雪とともに生きる会津には、ゲンベイヤフカグツ、カンゼンブシなどといった履物や外套類、コウシキと呼ばれるヘラや雪挽き鋸などの除雪道具、雪踏み俵やツルカンジキなどの新雪を踏み固めて道を作る道具など、特徴ある民具が伝えられてきました。またヒロロや山ぶどう、マタタビなどの植物を利用した編み組み細工の技、サワグルミなどの樹木の皮を利用して作られる箕などの樹皮製用具の利用は、竹の自生しにくい自然環境が生んだ生活文化といえます。さらに小正月の火祭りであるサイノカミや正月から小正月にかけて各地で行われる初市は、特徴ある会津の行事として知られており、春の彼岸に行われる獅子舞や



ブドウカゴ



サワグルミの皮箕



雪のなかの彼岸獅子(東神指)



奥会津の外套「カンゼンブシ」



初市の縁起物「起き上がり小法師」



起き上がり小法師

5月の祭礼で披露される農村歌舞伎は、長い冬が明けて春の到来を告げる行事でもあります。このような道具や技術、行事などの暮らしの文化は、広い会津地方のなかでも地域により異なる特色があります。会津盆地と奥会津といった環境の違いを背景とした豊かな文化の地域性も、今回の展示で心がけているポイントのひとつです。

当館には毎年、国内外から会津を観光される多くの方々来館されますが、会津の地域文化をまとめてご紹介する展示コーナーはこれまでありませんでした。新たな展示では、会津木綿や編み組み細工、初市や彼岸獅子など、会津を訪れる多くの方々が見たり触れたり、あるいはお土産として買い求める会津の観光資源を、地域の歴史や文化としての視点から紹介します。また会津に生まれ育った方々には、昔懐かしいモノから現代に伝わる文化までを思い起こしながら、語り合いたいのできる展示室を目指しています。生まれ変わった新たな展示を通して、現代の暮らしにつながる奥深い会津の歴史を感じていただけたら幸いです。

(民俗分野：内山大介)

ポイント展
紹介

元号改元の今と昔

会期：4月6日(土)～5月31日(金)
会場：常設展総合展示室 近現代
観覧料：常設展料金

天皇陛下の譲位に伴い、今年の5月1日に元号の改元が行われます。改元に先んじて4月1日には新元号が公表されることが決定しており、生前譲位とあわせて昨年から大きな話題となっています。皇位継承と改元を同時に行うことを定めたのは、明治時代のことです。ポイント展では、明治改元と一世一元を定める詔が写された「公用簿籍」を展示します。この資料は若松城開城後の町政を担った、検断(町役人)が写したものです。

一世一元が定められる前は、災異も改元の理由になりました。幕末の天皇として知られる孝明天皇の在位には、6回改元しています。展示する「土津神社古文」は、万延に改元となったことを会津藩が土津様(藩祖保科正之)に報告したものです。改元前の安政は、通商を要求する外国との条約締結、京都御所・江戸城本丸の火災、桜田門外の変等の事件が多発し、孝明天皇を悩ませました。このような災異が改元の背景にあったのです。新元号への改元を控えた今、あらためて昔の改元を振り返ってみませんか。

(歴史分野：平成と同年の栗原祐斗)



土津神社古文(土津神社蔵・当館寄託)



公用簿籍(個人蔵・当館寄託)

ポイント展
紹介

三葉虫の不思議

会期：4月27日(土)～6月21日(金)
会場：常設展示室 展示ロビー
観覧料：常設展料金

約5億年前から3億年の間、世界中の海で生息していた三葉虫。

中学校の教科書にも古生代の示準化石(時代を特定することができる化石)として掲載されており、子どもから大人まで見たり聞いたりしたこともあるのではないのでしょうか。

三葉虫は、体が3つの領域にわかれています。中央の領域を中葉、中葉から左右に飛び出たひさしのような領域を側葉とよび、中葉と左右の側葉で形づくられているため三葉虫といわれます。

種類数は、一説にはおよそ2万種にのぼります。そんな三葉虫は、時に奇抜で、時にもしろく、時にかわいらしい姿を私たちに見せてくれます。成体の大きさが5mm以下の小さいものや80cmの巨大なものもありました。突起が出ていたり、目ととびでいていたり、とげが生えていたりするものもありました。

福島県内でも地元の方々によって多くの三葉虫が発見されており、中には新種として報告されたものもあります。当館所蔵の三葉虫化石の展示を通して、三葉虫の奇妙で不思議な魅力を紹介いたします。ぜひご覧ください。

(自然分野：弦巻優太)



コネブルシア(当館蔵)



ネオアサフス(当館蔵)

＜取り上げる予定の人々＞

徳一、松尾芭蕉、イザベラ・バード、河東碧梧桐、柳田国男、武田久吉、柳宗悦、岡本太郎、司馬遼太郎、つげ義春、島尾敏雄

7月は特別編！

第4回の7月19日(金)は、企画展「興福寺と会津」の開催にあわせ、玄侑宗久氏をお招きして、徳一をテーマに開催します。お楽しみに。

主催：興福寺と会津展実行委員会

昨年度の館長講座は、「東北の文学者たち」をテーマに開催しました。吉野せいをはじめとする東北にゆかりのある文学者10人について、東北という風土がもたらした影響を、背景や作品からほりさげてご紹介しました。

今年度の館長講座は「風土の旅学―東北編」をテーマに、全10回行う予定です。僧侶・俳人・旅行家・登山家・学者・芸術家・小説家・漫画家など、近世から現代まで、さまざまなジャンルにおいて第一線で活躍した人々の紀行文を取り上げます。それぞれの軸足から見える東北の風景は、彼らの目にどのように映ったのでしょうか。ぜひ、お越し下さい。

なお、昨年度まで館長講座は木曜日に開催しておりましたが、今年度はおもに金曜日に開催予定です。ご注意ください。具体的な日程については、8Pのインフォメーションおよび当館ホームページ、館長講座のご案内チラシをご覧ください。

(学習支援班：阿部綾子)



イベント紹介

2019年度館長講座

風土の旅学―東北編

企画展予告

福島復興祈念展

興福寺と会津

徳一がつかないだ西と東

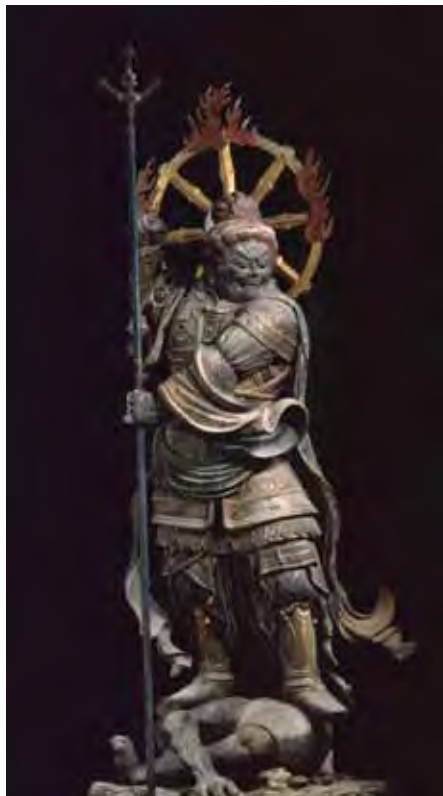
会期：7月6日(土)～8月18日(日)
会場：企画展示室・部門展示室 歴史美術
主催：興福寺と会津展実行委員会

「仏都會津」と称される会津の仏教文化は、平安時代初期に奈良の興福寺より会津を訪れた僧・徳一がもたらした信仰・文物をもとに花開きました。

本展では、徳一が結んだ縁をもとに、東日本大震災への祈りとして興福寺より高配をいただき、徳一が生きた時代の仏像をはじめ、国宝3件、重要文化財8件を含む興福寺の寺宝の数々をご紹介します。あわせて、徳一を開祖とする慧日寺伝来の品々など、徳一ゆかりの寺院の寺宝と会津の仏教美術をご紹介します。徳一が開いた道をたどります。

興福寺は度重なる戦乱・災害の難を受けながらも復興をなすとげ、各時代の新たな文化を築いてきました。その文化の力に福島が学ぶことは多いはず。様々な困難を乗り越えて守り伝えられ、祈りが託されてきた仏教美術。その信仰と魅力にぜひ触れていただきたいと思います。

(美術分野：塚本麻衣子)



四天王立像 広目天 興福寺蔵(東金堂所在)
国宝 ©飛鳥園

Information

企画展・特集展 企画展示室・エントランスホール

特集展
震災遺産を考える

4月11日(木)

料金：無料

■展示解説会(申込不要、無料)

4月7日(日) 13時30分～14時

講師：当館学芸員

企画展

とりもどさずな つながるみらい

4月27日(土)～6月9日(日)

料金：一般・大学生500円 高校生以下無料

■アーティストトーク

「福島の開発好明」(申込不要、無料、視聴覚室)

4月27日(土) 13時30分～14時30分

講師：開発好明氏(現代美術家)

「つながるアートーHEART MARK VIEWING」

(申込不要、無料、実習室)

4月28日(日) 13時30分～14時30分

講師：日比野克彦氏(現代美術家)

「プロジェクトFUKUSHIMA」の

これまで・これから

(申込不要、無料、エントランスホール)

4月30日(火) 祝 13時30分～14時45分

講師：大友良英氏(音楽家)

山岸清之進氏(プロジェクトFUKUSHIMA代表)

■ワークショップ

「HEART MARK VIEWING」

(申込不要、無料、実習室)

4月28日(日) 13時30分～16時30分

講師：日比野克彦氏(現代美術家)

「オーケストラFUKUSHIMA」

(申込不要、無料、前庭)

4月30日(火) 祝 15時15分～16時30分

講師：大友良英氏(音楽家)

*雨天時はエントランスホール

*楽器が音の出るものをご持参ください。

「光の鳥を飾ろう」(申込不要、無料、体験学習室前)

5月3日(金) 祝 13時30分～15時30分

講師：吉田重信氏(現代美術家)

「福興タルマをつくらう」(申込不要、無料、体験学習室前)

5月5日(日) 祝 13時30分～15時30分

講師：山本伸樹氏(現代美術家)

企画展

福島復興祈念展

興福寺と会津く徳一がつないだ西と東

ブレイクイベント

■連続講座(申込不要、無料、講堂)

「興福寺と会津くその歴史と美術」

5月26日(日) 13時30分～15時

講師：ザイレ映映氏(館学芸員)

塚本麻衣子(館学芸員)

「阿修羅像を未来へ」

6月9日(日) 13時30分～15時

講師：今津節生氏(奈良大学教授)

辻明俊氏(興福寺執事)

テーマ展

部門展示室 常設展料金

「いたてミュージアム

部門展示室 歴史・美術

4月13日(土)～6月23日(日)

うるわしのうるしのうつつわ

土の中から

部門展示室 考古

5月19日(日)

ポイント展

総合・部門展示室・展示ロビー 常設展料金

桜枝岐の歌舞伎衣装

4月2日(火)～5月15日(水)

元号改元の今と昔

4月6日(土)～5月31日(金)

戦国武将の花押と印判①—伊達政宗

4月20日(土)～6月23日(日)

三葉虫の不思議

4月27日(土)～6月21日(金)

型をつくる、型からつくる

5月17日(金)～7月10日(水)

会津の経塚—500年前のタイムカプセル

5月18日(土)～8月18日(日)

松平容大夫人の白衣観音図

6月29日(土)～8月30日(金)

講座・実演他

★は要申込

【館長講座】

「風土の旅—東北編」(申込不要、無料、講堂)

① 4月19日(金) 13時30分～14時30分

② 5月17日(金) 13時30分～14時30分

③ 6月21日(金) 13時30分～14時30分

講師：赤坂憲雄(当館館長)

【民俗講座】

「部門展示室リニューアル記念講座」

(申込不要、無料※解説会参加には常設展チケット、講堂・部門展示室)

① 5月12日(日) 13時30分～15時

② 6月16日(日) 13時30分～15時

講師：民俗分野学芸員

【歴史講座】

★「はじめてさんの古文書講座」(3回連続)

(要申込、定員30名、無料、実習室)

*第一回の1ヶ月前に募集開始

①「近世編」5月25日(土) 13時30分～15時

講師：阿部綾子(館学芸員)

②「近代編」6月8日(土) 13時30分～15時

講師：栗原祐斗(館学芸員)

③「中世編」6月23日(日) 13時30分～15時

講師：高橋充(館学芸員)

【考古学講座】

部門展示室考古リニューアル

「よみがえる会津大塚山古墳」(開館記念ミニシンポジウム)

「会津大塚山古墳を考える」(申込不要、無料、講堂)

6月29日(土) 13時30分～15時30分

講師：平澤慎、藤原妃敏(館学芸員)

【実技講座】

★「須賀川の絵のぼり・小旗をつくらう」

(要申込、定員15名、エントランスホール)

5月4日(土) 祝 13時30分～15時

講師：大野青峯氏、大野久子氏(伝統技術継持者)

【その他】

「博物館でも読み聞かせ」(申込不要、無料、体験学習室)

4月13日(土)～5月11日(土)、6月8日(土)

各11時～11時30分、14時～14時30分

講師：読み聞かせグループのみなさん

「子どもミニミニ博物館」(申込不要、無料、体験学習室)

4月27日(土)～5月6日(月) 祝

9時30分～16時30分

ミュージアムイベント

「山ノ内磐水と玄如節」

(申込不要、無料、エントランスホール)

6月15日(土) 13時30分～15時

出演：玄如節顕彰会のみなさん、ほか

*要申込の行事は基本的に開催日の1ヶ月前から募集を開始します(異なる場合もありますのでご確認ください)。電話もしくは受付カウンターでお申込みください。

*その他、行事等の詳細につきましては、月行事予定やホームページをご覧ください。

4～6月の休館日

4月1日(月)・8日(月)・15日(月)・22日(月)

5月7日(火)・13日(月)・20日(月)・27日(月)

6月3日(月)・10日(月)・17日(月)・18日(火)・24日(月)

【お問い合わせ先】福島県立博物館

〒965-0807 会津若松市城東町1-25

Tel 0242-28-6000・Fax 0242-28-5986

Mail general-museum@fcs.ed.jp